

研修主題 生徒が主体的に行う社会貢献活動について ～総文祭、コロナ禍における特色ある活動～

I 団体の概要

本研究会は、平成23年度に教科・科目「奉仕」における授業実践と、「社会の一員の自覚」と「規範意識と社会貢献意識の醸成」等を目的に発足し、11年目を迎えました。

これまで「ボランティア教育」に関心をもつ教育者や、ボランティア関係団体の方々が集まる研究会として活動しています。

令和2年から令和4年前期は、第46回全国高等学校総合文化祭東京大会（以下、総文祭という）「ボランティア部門」の委員として研究会が関わりました。研究会の公式Webページにて様々な情報発信を行っています。

II 研究の目的

約2年間、本研究会として、第46回全国高等学校総合文化祭東京大会「ボランティア部門」の生徒実行委員会に関わった。ボランティア経験のない生徒たちが、本大会の企画・運営を通して、どのように社会と向き合い、何を学んだか、レガシーとして何を残せるか分析することを研究の目的とした。アンケートを実施し生徒の行動の変容を分析し、研究紀要等で情報を発信しボランティア活動や社会に関わる活動に主体的に取り組む大切さを発信し、広く普及・啓発させる。

また、都立学校における「人間と社会」の体験学習等が、コロナ禍において大きく様変わりしている。「人間と社会」における指導法を学ぶとともに、体験学習の在り方について研究を行い、研究紀要等で広く普及・啓発できるよう、素材集めに努めていく。

III 研究の方法

- ①総文祭、実行委員会（教員）及び生徒実行委員会で、生徒が主体となって取り組める活動を提案、指導していく。その際に、達成感や成就感を育む仕掛けを構築していく。
- ②「人間と社会」において、調査・研究している第一人者を招き、指導法や体験学習についての研修会を企画する。その際に、意見交換をできる場面を作る。
- ③主題に関する情報を、各区市町村ボランティア・市民活動センターや、関係NPOの協力を得ながら収集に努め、月例会等に生かしていく。

IV 研究の内容

- ①総文祭、部門別実行委員会の運営と、生徒が主体的に関われる生徒実行委員会のファシリテートを行う。
- ②総文祭後に生徒実行委員会でアンケートをとり、生徒の変容等を見取り、結果の分析を行い、紀要等で発信していく。
- ③高等学校における「人間と社会」の指導法、コロナ禍等における体験学習の実施方法について、研究を行っている第一人者を招き、講演及び意見交換を通して学ぶ。
- ④1年間の成果を研究紀要にまとめ、都立学校及び本研究会のWebページに掲載する。

V 研究の成果と課題(まとめ)

<成果>

- ①総文祭を滞りなく進行し、フィールドワーク（4分野）内で多くの成果物を得ることができた。
- ②「人間と社会」の研究に携わる大学准教授を講師として招き、研修会を設定できた。
- ③情報共有の場として、本研究会のWebページを更新し、過去3年間の研究紀要（PDF）をアップし、広く都民に普及・啓発できた。



<課題>

- ①ボランティア活動等と探究活動をどのように結び付けていくか、実際に行っている学校等を調査し、情報を得ていく。
- ②奉仕・ボランティア活動の推進者を研究会として育成できる研修会等を検討していく。
- ③特別活動において、ボランティア教育を推進している学校の調査を行い、効果的な指導法等を共有していく。

VI 団体の取組

- ①月1回の月例会を実施するよう、計画している。
- ②年に1回、奉仕・ボランティアに関わるイベント等を企画・運営を行っている。(今年度は、「人間と社会」に関する指導法と体験学習の取組事例に関する研修会)
- ③研究会のWebページで情報の発信を行っている。
- ④年に1度、研究紀要を発行し、都立学校等に配布し、今年度から本研究会Webページでも公表を行っている。

VII 実践事例

今年度は、実践事例として挙げられるものはないが、過去には、認定NPO団体と協力し、東京都教育委員会の後援で、スクールボランティアサミットを開催していた。

また大学准教授を招いての研修会も実施をしている。

研究紀要を作成し、奉仕・ボランティア教育に関する情報の発信を行っている。

研究紀要には、実践事例なども掲載している。本研究会のWebより御覧ください。



(東京都奉仕・ボランティア教育研究会Webページ)

東京都奉仕・ボランティア教育研究会主催
(東京都教育委員会が認定する研究推進団体)

「人間と社会」の調査・研究から分かること

東京大学准教授が、令和3年度より小中学校、令和4年度より高校で調査実施され、令和4年度より実習校では、専攻選定が実施されています。なかでも、特別の選定(選定)や「総合的な学習の時間」(小・中学校)、「総合的な学習の時間」(高等学校)における指導の充実が期待されており、あわせて、社会体験活動などの体験的な学びをとおして、主体的・対話的で深い学びへと、児童生徒を導くことが期待されています。

また、これからの社会をたくましく生きていくための必要知識・能力の育成の方向の一環として、社会に即した教育実践の高度な役割として、カリキュラム・マネジメント、WELLNESSプログラムなどとして学校での活用が期待されています。

そこで本研究会では、長年、ボランティア学習研究会で、都立高校における都立員研「人間と社会」を研究している、神奈川大学准教授本間生史先生をお招きし、「人間と社会」の事例等を指導いただき、報告・質疑・応答を含め、二日間加えた活動で実践の場を共有してまいります。

〇日時
令和4年12月26日(月) 15:00-16:40
(受付14:45-)

〇講師
東京大学准教授 神奈川大学 3階大規模演習室
(〒15-0059 東京都国立区3-1-4-20)
〇研修費
東京都立上野高等学校
15:00 集合挨拶
15:05 開演
16:00 質疑・応答・情報交換等
16:40 閉会挨拶
17:00 会費精算

〇講師
天室 真任 氏
神奈川大学 社会学部 准教授
特別に「人間と社会」の調査・研究について、教育実践から得た豊富な知識と、その実践から得た経験に基づき、「人間と社会」の事例等を指導いただき、報告・質疑・応答を含め、二日間加えた活動で実践の場を共有してまいります。

〇参加費無料 (都立学校の先生は「研修費」です)

〇研修費
東京都立上野高等学校
15:00 集合挨拶
15:05 開演
16:00 質疑・応答・情報交換等
16:40 閉会挨拶
17:00 会費精算

〇申し込み・連絡先
東京都奉仕・ボランティア教育研究会事務局
東京都立赤羽北桜高等学校 本会 総務課
お問合わせ電話 03-5948-4390
申し込み先〒 hoshibon@pa11.com

【研修案内図】

<連絡先>

団体名		東京都奉仕・ボランティア教育研究会
代表者	所属	東京都立上野高等学校
	職 氏名	統括校長 吉田 寿美
	連絡先	03-3821-3706
事務局	所属	東京都立赤羽北桜高等学校
	職 氏名	主幹教諭 正木 成昭
	連絡先	03-5948-4390